**神話と人権　－育鵬社教科書の根本問題－　レジュメ**　　　　　　　　　　半沢英一

　　　　　　　　　　　　　　　　　２０１６．８．２０於加賀市アビオシティ研修室

**第１部　育鵬社教科書の背後にいるもの**

**（１）Ｇ７首脳の伊勢神宮参拝に対する国内の無感覚と海外の批判**

　The guardian：安倍によって、日本独自の宗教は、第二次大戦における日本の敗北によって終わった軍国主義との密接な関係の７０年後に、政治的な復活をなしとげた。・・・安倍とその内閣のほとんど（２０人中１３名）を含む、３万８千人の会員をもつ日本会議は、日本はアジアを欧米の植民地支配勢力から“解放”したのであり、戦後の憲法は国の“真実の、本来の性格”を去勢したと信じている。

**（２）伊勢神宮とは何か・天皇とは何か**

**『古事記』『日本書紀』の主要４テーゼ：こうして「天皇」が創出された**

①　天照大神（伊勢神宮の祭神）が高天原の主神

②　天照大神によって地上の統治を命じられ、降臨したその子孫が、大和に遠征して天皇となり、天皇家は前方後円墳が造られた時代を通して断絶なく、『古事記』『日本書紀』を造った天武天皇まで続いている。

③　日本の諸氏族（神別・皇別・帰化氏族）は天皇家を中心にした血族国家をなしている。

④　朝鮮は神功皇后によって征伐され、服属を誓った、日本の臣下である。

**伊勢神宮とは何か**

伊勢神宮は、天武天皇によって、天皇家の支配を正当化する天照大神の鎮座する神社として創出され、明治以後の大日本帝国によって、アジアへの侵略・植民地支配を正当化する国家神道の頂点として位置づけられた。

**（３）国家神道とは何か**

**大日本帝国憲法（１８９９）**

第一条　大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス、第三条　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス、第十一条　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

**教育勅語（１８９０）**

一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ

**『日本書紀』天孫降臨段一書**

因りて、皇孫に勅してのたまわく、「葦原の千五百秋の瑞穂の国は、是、吾が子孫の王たるべき地なり。爾皇孫、就でまして治せ。・・・宝祚の隆えまさむこと、當に天壌と窮り無けむ」とのたまふ。

**国家神道システム**

①　古代天皇制の持つ呪術的威信の利用（古典、陵墓、新規神宮）

②　皇室祭祀の再編成（紀元節、天長節、大嘗祭・・・）

③　大日本帝国憲法、教育勅語による国民統制

④　内務省神社局（神祇院）による神社の統制、皇典講究所（国学院）・皇學館による神職の意識支配

⑤　靖国神社

**（４）国家神道のアジア侵略に果たした役割**

**神功皇后神話と韓国併合**

日本最初の肖像紙幣は壬午軍乱（１８８２）と甲申政変（１８８４）の間の１８８３年に出された神功皇后札。朝鮮銀行券は一貫して建内宿祢（神功皇后側近）札。

**牛島満沖縄軍司令官最後の軍命令（１９４５・６・１９、於摩文仁岬壕）**

爾今、各部隊は各局地において生存者中の上級者これを指揮し、最後まで敢闘し悠久の大義に生くべし。（悠久の大義＝天壌無窮の皇運）

**真の「悠久の大義」とは何か**

ビッグバン１３７億年、太陽系４６億年、地球生命３６億年、人類７００万年、現生人類２０万年、それが本当の「悠久」であり、その中で人類の一員として、人類の文化を、理性を持って担うことこそが、本当の「悠久の大義」ではないのか。たかだか１３００年前の島国の呪術的な王権イデオロギーは「悠久の大義」でもなんでもない、カルト的妄想である。

**（５）解体されつつも生き残った国家神道**

神道指令１９４５、人間宣言１９４６、建国記念日制定１９６６、元号法制化１９７９、大嘗祭１９９０、国旗国歌法１９９９

**（６）日本会議とは何か**

**日本会議**

神社本庁など生き残った国家神道勢力を、７０年代に生長の家学生運動に関わっていた活動家（椛島有三、伊藤哲夫、衛藤晟一、高橋史郎、百地章）がコアになり形成した、憲法改正・国家神道復活を妄想する秘密主義カルト統一戦線。

**日本会議の目標**

①天皇制の強化、②憲法「改正」、③歴史修正主義、④教育の国家統制、⑤靖国神社顕彰、⑥人権の制限、⑦領土強迫観念の刷り込み、⑧軍国主義への回帰

**神道関係の日本会議役員**

顧問：北白川道久（神社本庁統理）、鷹司尚武（神宮大宮司）、副会長：田中恆清（神社本庁総長）、代表委員：岡田光央（崇教真光教え主）、小串和夫（熱田神宮宮司）、黒住宗晴（黒住教教主）、高木治延（神宮少宮司）、徳川康久（靖国神社宮司）、中島精太郎（明治神宮宮司）、中野良子（オイスカ・インターナショナル総裁）、廣池幹堂（モラロジー研究所理事長）、保積秀胤（大和教団教主）、松山文彦（東京都神社庁庁長）、丸山敏秋（倫理研究所理事長）、理事長：男成洋三（明治神宮崇敬会理事長）

**第３次安倍内閣の日本会議国会議員懇談会員**

安倍晋三（総理）、麻生太郎（副総理・財務・金融）、高市早苗（総務）、岸田文雄（外務）、塩崎恭久（厚生労働）、森山裕（農林水産）、林幹雄（経済産業）、丸川珠代（環境）、中谷元（防衛）、島尻安伊子（沖縄北方）、加藤勝信（拉致問題・女性活躍）、石破茂（地方創生）、菅義偉（官房長官）

**（７）育鵬社教科書の背後にいる日本会議**

**育鵬社の出自**

１９９７：「新しい歴史教科書をつくる会」の扶桑社教科書採択運動

２００６：「新しい歴史教科書をつくる会」が藤岡信勝派と日本会議派に分裂

２００７：安倍晋三がフジ・メディア・ホールディングス会長・日枝久に口利きし、フジ・メディア・ホールディングスが１００％出資する育鵬社が、教科書を発行を目的として発足。

**２０１５大阪の育鵬社教科書採択**

全国占有率が２０１１年の歴史３・７％、公民４・０％から、２０１５年は歴史６・３％、公民５・７％にアップ。アップ分のほとんどを大阪・泉佐野・四条畷・河内長野の大阪府内４市（特に大阪市）が担った。大阪市の社会科教科書採択市民アンケート１４２８件中、育鵬社教科書を肯定的に評価するものが７７９件、否定的に評価するものが３７４件だった。岸和田市の不動産会社フジ住宅（東証１部上場）が、社員を組織動員し、大阪市内の教科書展示場で肯定的アンケートを書くよう強要しており、２０１５年８月３１日、在日韓国人３世のフジ住宅女性社員が、社内のヘイトハラスメントとともに精神的苦痛を受けたと、フジ住宅の今井光郎会長への慰謝料請求裁判を大阪地裁岸和田支部に提訴。今井光郎氏は日本会議参加団体・倫理研究所の要人。アンケートの具体的戦略を育鵬社や日本教育再生機構が指示。「フジ住宅内部資料」がネットで公開されている。

**第２部　育鵬社教科書における神話・神道・神社と人権**

**（１）育鵬社歴史教科書の神話記述**

**「天孫降臨」「神武東征」神話（ｐ５１）**

**巨大前方後円墳を天皇の墓とする無批判（ｐ３０他）**

「天皇」は前方後円墳の造営が終わってから百年も経った後に『古事記』『日本書紀』によって創出された観念。『古事記』『日本書紀』を書いた天武の王家は、前方後円墳時代の倭王を「天皇」にしたがっているが、それは天武の王家の「願望の過去」であり、歴史つまり「現実の過去」である保証はない。考古学は前方後円墳時代に「天皇」が、言葉だけでなくそれに似た存在もいなかったことを示している。前方後円墳の伝播は祭祀連合を示唆し、神武東征神話もヤマトタケル神話も史実ではありえない。**前**方後円墳時代の倭王は、呪術的権威を独占した後世の天皇とは異質の、祭祀連合王権の最高祭祀王であった。巨大前方後円墳の被葬者を天皇と思うのは日本人の幻想である。

**前方後円墳の全国分布状況**

①　沖縄、北海道、青森、秋田を除く全都道府県で造営。ただし岩手県は１基。

②　３世紀後半～６世紀末まで４７０４基（亜種の前方後方墳は５１２基）造営（２００４年の数字）。

③　箸中山～渋谷向山（景行天皇陵）～五社神（神功皇后陵）～誉田山（応神天皇陵）～大山（仁徳天皇陵）～河内大塚～見瀬丸山と同時代最大古墳（倭王墓ならん）が畿内に造営。

④　律令時代の蝦夷・隼人反乱地域でも４世紀段階で前方後円墳が造営。

**（２）育鵬社公民教科書の神道・神社記述**

**「日本の伝統文化」（ｐ２６～２７）**

日本人は古くから自然を信仰し、祖先の霊をまつる神道を大事にしてきました。・・・のちに、仏教が伝わると、その教えを融合し、お盆や春・秋の彼岸に祖先を祭るようになりました。これらは、神社の祭礼や民俗信仰、年中行事だけでなく、皇室の文化や祭祀（神仏や祖先をまつること）の大きな特色でもあります。

・・・伝統文化から、私たちは受け継がれた深い精神性や人としての礼儀や生き方などを学ぶことができます。それは、日本人が長い歴史を通じてつちかい、はぐくみ、伝えてきた日本人の心でもあります。その心を現在の私たちが受け継ぎ、身につけることが大切なのです。

**日本国憲法第２０条３項**

国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。

**神道は「祖先の霊をまつる」のか**

諏訪信仰・白山信仰などはそうではない。

**神道と仏教は単純に切り離せるのか**

僧によって開始された白山信仰。廃仏毀釈時に神社となった八坂神社。無理やり神社にされた竹生島。

**社数から見た神社ベスト１０**

①　八幡（八幡神：応神天皇と習合されたのは平安時代）

②　伊勢（天照大御神）

③　天神（菅原道真）

④　稲荷（宇迦之御魂神：『記』ではスサノオの子神）

⑤　熊野（家都御子神）

⑥　諏訪（建御名方神：『記』では大国主の子神）

⑦　祇園（牛頭天王：スサノオになるのは明治の廃仏毀釈時）

⑧　白山（菊理媛：『紀』のイザナギ禊段の一書に現れるのみ）

⑨　日吉（大山咋神：『記』では正体不明の大年神の子神）

⑩　春日（春日神：藤原氏の氏神）

**神道と天皇は一体なのか**

前方後円墳と天皇が一体でないように、神道と天皇も一体ではない。

**折口信夫（大聖寺・二水・羽咋高校校歌の作詞者）の戦後天皇論**

戦前は國學院大學（皇典講究所）教授として国家神道の一翼を担った折口信夫は、日本の敗戦後、新憲法を支持した他、草創期の神社本庁で、天皇と手を切ってゆかないと神社は自由な発展ができない、と講演し、神道関係者に衝撃を与えた。

**神道を無批判に賛美してよいのか**

国家神道の戦争責任のみならず部落差別との関連を無視してはならない。

**日本の民主主義と神道**

日本の民主主義は、これまであまり考えてこなかった「神道」の問題と、真摯に向き合わなければならない。

**（３）育鵬社公民教科書の人権記述**

**「基本的人権」と称する「臣民の義務」（ｐ５４）**

憲法は、権利の主張、自由への追求が他人への迷惑や、過剰な私利私欲の追求に陥らないように、また社会の秩序を混乱させたり社会全体の利益をそこなわないように戒めています。

**自民党憲法「改正」草案第１２条**

・・・自由及び権利には責任及び義務が伴うことを自覚し、常に公益及び公の秩序に反してはならない。

**基本的人権の無条件性**

①　すべてのものは思想、良心及び宗教の自由についての権利を有する。（世界人権宣言第１８条）、②　何人も、裁判所において裁判を受ける権利を奪われない。（日本国憲法第３２条）、③　他者の基本的人権とぶつかるとき初めて制限を受ける。「公共の福祉」とはそういう意味。

**（４）神話が終わった処から人権が始まる**

**人権思想の濫觴・ロック『統治二論』（１６９０）の四苦八苦**

『統治二論』の前半は「ヘブライ語聖書（旧約聖書）」の家父長制中立化に費やされる。

**神話と帝国主義**

日本が朝鮮の植民地支配に神功皇后神話を利用したように、欧米帝国主義は「約束の地」神話を利用した。現在でも（バイデン米副大統領も信奉するクリスチャン・シオニズムなどで）イスラエルのパレスチナ支配に利用されている。

**進化論まで考える必要性**

世界に跋扈するカルト的宗教原理主義、カルト的ナショナリズム（日本会議もその一つ）を脚下に見下すために、また現在の人類の危機的状況を克服するために、主権者一人一人が、「科学的世界観の中での人類」という視点を持つことが必要である。

**神話に退化する日本**

神話が終わった処から人権が始まる。育鵬社教科書の根幹は、神話を肯定して人権を否定することにある。人類普遍の問題が育鵬社教科書をめぐって争われている。

**（５）国際人権論に立脚しカルト的ナショナリズムに対抗せよ**

**国際人権システムの中にある日本**

ＩＬＯ条約、国連人権条約、人権理事会の普遍的定期審査、日本の教科書への国際的批判

**日本の人類からの引きこもりは可能か？**

かつて日本は１９３３年に国際連盟を脱退し、その５年後にはＩＬＯも脱退した。当時、日本はアジア唯一の帝国主義国家であり、やがて破滅に至るにせよ、そういった行動が可能だった。現在の日本はそのような位置にない。国際人権システムによる規制はいつもでも続く。国際人権システムは日本のカルト勢力が手出しできない、日本の民主主義の後衛である。敗北を過大視してはならない。民主主義はタフでなければならない。

**参考文献**

［１］甘粕健・春日真実編『東日本の古墳の出現』山川出版社１９９４

［２］アリス・ロバーツ編著、馬場悠男日本語版監修『人類の進化大図鑑』河出書房新社

２０１２

［３］伊藤博文著、宮沢俊義校註『憲法義解』岩波文庫１９９７

［４］上杉聰『天皇制と部落差別』解放出版社２００８

［５］上杉聰『日本会議とは何か』合同出版２０１６

［６］大城将保・目崎茂和著『修学旅行のための沖縄案内』高文研２００６

［７］岡田精司『京の社』塙書房２０００

［８］倉野憲司校注『古事記』岩波文庫２００７

［９］近藤義郎『前方後円墳と吉備・大和』吉備人出版２００１

［１０］『前方後円墳の起源を考える』青木書店２００５

［１１］在日韓人歴史資料館編著『写真で見る在日コリアンの１００年』明石書店

［１２］坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀』（全２巻）岩波書店

１９９３

［１３］島薗進『国家神道と日本人』岩波新書２０１０

［１４］『週刊金曜日』成澤宗男編著『日本会議と神社本庁』金曜日２０１６

［１５］『昭和天皇独白録』文春文庫１９９５

［１６］ジョン・ロック著、加藤節訳『完訳　統治二論』岩波文庫２０１０

［１７］菅野完『日本会議の研究』扶桑社新書２０１６

［１８］『秋季特別展　前方後方墳』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館２００４

［１９］俵義文『日本会議の全貌』花伝社２０１６

［２０］半沢英一『天皇制以前の聖徳太子』ビレッジプレス２０１１

［２１］樋口陽一『いま、「憲法改正」をどう考えるか』岩波書店２０１３

［２２］『別冊太陽　伊勢神宮』平凡社２０１３

［２３］中塚明『日本と韓国・朝鮮の歴史』高文研２００２

［２４］中村生雄『折口信夫の戦後天皇論』法蔵出版１９９５

［２５］白山本宮神社史編纂委員会編『図説　白山信仰』白山比メ神社２００３

［２６］安丸良夫『神々の明治維新』岩波新書１９７９

［２７］横田洋三編『国際人権入門［第２版］』法律文化社２０１３

［２８］『読もう考えよう育鵬社教科書』いしかわ教育総合研究所２０１６